



ストリートチルドレン芸術祭

Art of the Children Living on the Street

—あなたがいてくれてよかった—

2015年度 活動報告書

(2015年4月～2016年3月)



ストリートチルドレン芸術祭

2016年（平成28）年4月

目次

1. ごあいさつ	3
2. ストリーチルドレン芸術祭とは	4
3. 2016年版カレンダー制作について ..	7
4. 2015年度活動概要	10
5. 2015年度会計報告	17
6. 終わりに	18

ご あ い さ つ

2014年に10年を迎えましたストリートチルドレン芸術祭。2015年は新たな1年目として活動を進めて参りました。しかし、2016年版ストリートチルドレン芸術祭チャリティカレンダー完成は、11月末にずれ込み、ご支援、ご協力下さいました皆様には、大変ご迷惑をおかけいたしましたことお詫び申し上げます。

さて、今年度も東北福祉大学国際ボランティアサークルの学生を中心に、カレンダー完成報告会、ストリートチルドレン絵画展、スタディツアー等の活動を推進して参りましたが、その中で課題が明らかになりました。カレンダー発行の遅れと販売努力不足、イベントへの周知徹底や集客へ向けての広報の在り方などです。今までは、企画したことを行ったことよとしていたことを反省するしだいです。これら課題を提起できたのは、新たな1年として活動を進める姿勢があったからと、前向きにとらえました。

反省を活かすために、2016年3月3日に行われた拡大実行委員会には、2016年度の活動の中心となる1, 2年生メンバーのほとんどが参加しました。その場で学習会を開き、学生個々のストリートチルドレン芸術祭活動に対する思い・願いを出し合ってもらい、それらを基にして活動の核となる学生が、活動構想を立案検討しました。自ら主体となって取り組んでいく強い気持ちを共有し合うことができました。そこには、卒業生も参加し学生の後押しをしてくれました。

本年度の活動であったベトナム・スタディツアーに触れさせていただきます。参加メンバーは、6名と小人数でしたが成果はたくさんありました。まず直接、ストリートチルドレンの自立支援を推進しているボランティア団体に支援金をお渡しすることができました。「子どもの家」を訪問し、施設見学や運営、子どもの生活状況等の説明を受けました。また、20年来運営に携わっています小山道夫氏から90分、ボランティア活動について講演を聴かせていただきました。子どもたちによる歓迎会、交流と充実した時間を送ることが出来ました。

2016年度活動へ向けて、すでに学生中心に取り組み始めています。3月3日に行われた実行委委員会で話し合われた事項を、一つ一つ確実に実行していき、ご支援ご協力下さる皆様方のご期待に応えるべく努めて参ります。

2015年度活動報告を兼ねまして、2016年度へ向けての活動のごあいさつとさせていただきます。

2016年4月吉日

ストリートチルドレン芸術祭代表 中島洋一郎

2. ストリートチルドレン芸術祭とは

今日、世界では貧困、紛争、虐待など様々な理由により住む家がないため、路上生活を余儀なくされているストリートチルドレンといわれる子どもたちが1億人いると言われています。彼らは生きるために、学校へ通うこともできず、ゴミを拾いお金に換えたり、物乞いしたりすることで日々を懸命に生きています。さらに、彼らは飢餓の危険に直面しているだけでなく、誘拐されて子ども兵として戦場に送り込まれる、臓器を奪われる、性的な被害に遭うなど、さまざまな脅威にさらされています。

『ストリートチルドレン芸術祭』が誕生したのは2005年のことでした。路上で暮らす子どもたちをただ単にかわいそうと見るのではなく、彼らの描く絵を通じて、彼らの存在や思い・感性・可能性を一人でも多くの人々に実感してもらえたらという願いから、ストリートチルドレンに特化した芸術祭を開催する組織として世界で初めて誕生しました。

ストリートチルドレン芸術祭は有給スタッフ不在の無償ボランティア団体です。当初は熱海市立小嵐中学校の生徒・教職員のほか、各地の小中学校の教員、国際協力関係の団体職員、会社員、主婦、大学生、高校生など、内外 30 名ほどのスタッフで構成されていました。世界 100 か国以上に広がる国際協力機構 (JICA) のネットワークや NGO 団体、世界の若者たちのネットワークなどの協力を得て、世界の子どもたちの絵は集められています。

東京に本部を置く『ストリートチルドレン芸術祭実行委員会』が制作するチャリティカレンダーは、ヤンキース松井秀喜選手、女優の藤原紀香ら、各界の著名人と静岡の中学生たちが、子どもたちのために掲載用の作品を無償で選出したのがはじまりでした。これまでに世界中の子どもたちから 1000 点を超える作品が寄せられてきました。ここで得られた収益はストリートチルドレン支援をしている現地 NGO 協力のもと、子どもたちの自立支援や生活改善、学校へ行くための費用などに活用されています。

そして、芸術祭の趣旨に賛同した東北福祉大学・生田目学文ゼミが 2007 年からカレンダー作りに参加したのが、私たち東北福祉大事務局のはじまりです。3 年間のゼミ内での活動を経て 2010 年からは大学公認の国際ボランティアサークルとして、より多くの学生が活動に加わり、活動範囲も広がりました。またこの 3 年間は東京本部と東北福祉大事務局がそれぞれにカレンダー制作を行っていましたが、2011 年からは、多くの方々にご協力いただきながら、東北福祉大事務局の学生が主体となってカレンダー制作、販売ならびに世界中の子どもたちが描いた絵の展示会などを行っております。

2005 年から活動が始まったストリートチルドレン芸術祭も昨年度で 10 周年を迎えました。2016 年度も、チャリティカレンダー制作や原画展、イベント参加等による啓発活動を通して、ストリートチルドレンや世界中で支援を必要としている子どもたちの想いや存在を、ひとりでも多くの方々へお伝えし、活動の更なる発展を目指していきたいと考えております。

○活動の趣旨

この一枚の絵は、私たちストリートチルドレン芸術祭の活動の原点です。

「将来自分に住みたい家」というテーマで、多くの子どもは田園風景に広がる小さな家を描く中、彼だけが、お母さんのお腹の中にいる胎児を描きました。彼は、「だって自分が 15 年間生きてきた中でここが一番安全だから…」というコメントを寄せたのです。



作者：ジェイソン（男子）
（2005年作品 提供時15歳）
国：フィリピン

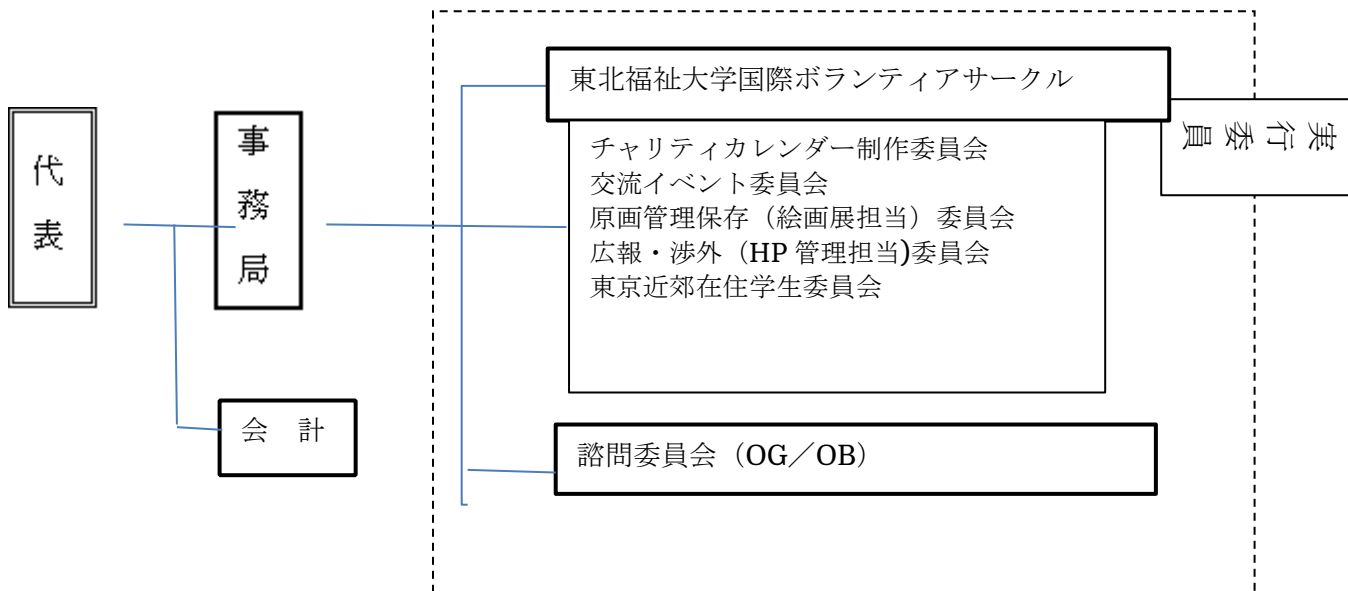


『世界の子どもたちが 安心して暮らせる安全な環境』

ストリートチルドレンをはじめ様々な困難な環境のもと生きている子どもたちが描く絵を通して、彼らの存在、思い、可能性をより多くの方にとっていただき、世界の子どもたちが安心して暮らせるような環境づくりのための支援活動を行うことを目的としています。

○組織概要

ストリートチルドレン芸術祭組織図



ストリートチルドレン芸術祭の活動運営主体は、東北福祉大学国際ボランティアサークルです。また、事務局のもとに企画ごとの実行委員会を設け、活動の運営をしていきます。

3. 2016年版チャリティカレンダー制作について

私たちは路上生活を強いられているストリートチルドレンと呼ばれる子どもたちの支援を行うことを目的とし、チャリティカレンダーを制作しています。

2016年版チャリティカレンダーのテーマは「たからもの」です。

自分自身の「たからもの」を思い浮かべたとき、ほっとしたり、わくわくしたり、温かい気持ちになったりと、私たちは自身の「たからもの」に関して、何か特別な、大切な思いがあるのではないかと考えました。そして、世界中のどこに住んでいたとしても、どんな状況下で暮らしていても、すべての人に「たからもの」は存在し、その存在は私たちを温かく包み込み、時には心の支えになるのではないかと考え、世界中の子どもたちひとりひとりが持っている「たからもの」は何であるのか、それにはどのような思いが込められているのかを知りたいと考えました。

同時に「たからもの」という私たちひとりひとりが持つ共通点を知ることで、日本に住む方々に、世界中の子どもたちに親近感を抱いていただけるのではないかと考え、この「たからもの」を2016年度版チャリティカレンダーのテーマとして掲げました。

世界にはまだ困難な環境の中で生活をしている子どもたちがたくさんいます。そのような子どもたちが描いた「たからもの」を見て頂き、子どもたちのことを知っていただくことで、少しでも身近に感じていただくことで、現在よりもさらに支援の輪が広がっていくことを願っています。そして、子どもたちが描いた絵を通して、彼らへとさまざまな思い

を馳せていただければと思います。

今回、子どもたちが描いた数多くの絵の中から、カレンダーに掲載した、表紙・各月を合わせた 13 枚の絵を、各界の著名人や国際協力・支援に携わっている方など、幅広い分野の方々13名に選んでいただきました。また、子どもたちが描いた絵に対してのコメントもいただき、併せて掲載させていただきました。

子どもたちひとりひとりにとっての「たからもの」や、絵を選考していただいた方々のコメントを通して、何か皆様の心に残るものがありましたら幸いです。

○2016 年度版チャリティカレンダー 絵の募集先について

チベット子どもの家 [TCV] (インド・ダラムサラ)
愛センター (カンボジア)
Zambia Children New Life Center [ZaNeLic] (ザンビア)
モンゴル子ども支援ネットワーク [IVNMC] (モンゴル)
子どもたちの希望の家 (インドネシア)
The Glory Kibena Pre&Primary (キベナ小学校) (タンザニア)
Mafinga Community Welfare (MCW) (NGO) (タンザニア)
エクマットラ (バングラディシュ)

2016 年度版チャリティカレンダーの制作に伴い、上記の7カ国 8 施設に絵の募集をかけ、計 81 点の絵が集まりました。

○2015 年度チャリティカレンダー 選考者紹介

月	選考者	活動内容
表紙	工藤 律子さん	ジャーナリスト NGO ストリートチルドレンを考える会共同代表
1月	北川 悠仁さん (ゆず)	ミュージシャン
2月	本間 勇輝さん	NPO 法人 HUG 代表理事
3月	金本 知憲さん	プロ野球阪神タイガース監督
4月	イルカさん	シンガーソングライター・絵本作家 IUCN 国際自然保護連合親善大使
5月	熱海市立熱海中学校	ストリートチルドレンの活動を校内に伝える
6月	石井 光太さん	作家
7月	大脇 崇さん	写真家
8月	木村 裕一さん	絵本・童話作家
9月	松山 英樹さん	プロゴルファー

10月	ラオス学校建設教育支援プロジェクト～スーン～	ラオス・チャムバーサーック郡の小学校にて、子どもたちへの教育支援を行っている。
11月	榎本 孝明さん	俳優
12月	葉田 甲太さん	内科医・カンボジア支援

2016年版チャリティカレンダーに使用された絵は、上記13名の方に選考していただきました。

○2016年度版チャリティカレンダーのご紹介



2016年度版チ

ャリティカレンダー 表紙

作品のタイトル： 「我が心のポリシャル」

作者： Shihab Sharar Sumon くん (17歳・男の子 / バングラディシュ)

絵を描いた理由： 自分が生まれ育った土地・ポリシャルが大好きだから。



2016年度チャリ
ティカレンダー 7月

作品のタイトル：
「命の源」

歳・女の子 / カンボジア)

絵を描いた理由： 水を飲まないと、みんな死んでしまうから。毎日とても暑いので、水はとても大切です。私は水が大好きです。

4. 2015 年度活動概要

○原画展開催

毎年ストリートチルドレン芸術祭の活動を通して、世界各国から数多くの原画が集まりますが、カレンダーに使用する絵として選ばれるのはその中のわずか 13 点だけです。しかし、作品の中にはまだまだ素晴らしいものがたくさんあります。

カレンダーに選ばれなかった作品も多くの方に見ていただきたい、そして彼ら一人一人の思いを皆様に伝えたい、という思いから、子どもたちの絵を実際に見て、感じられる原画展を開催しております。

1 宮城県仙台第一高等学校・文化祭「老高祭」での原画展

「若い世代にもストリートチルドレンのことを知ってほしい」という思いから、中高生が多く集まる高等学校の文化祭の場をお借りし、開催いたしました。

開催日時：2015 年 8 月 29 日(土)～8 月 31 日(月) 場所：宮城県仙台第一高等学校



2 第7回くにみ街道まつり

東北福祉大学が主催する地方創生事業のイベントにてブースを設けさせていただき、大学周辺地域の方々をはじめ、多くの方々にご来場いただきました。

開催日時：2015 年 10 月 18 日(日) 場所：東北福祉大学 ステーションキャンパス



③ せんだい地球フェスタ

様々な国際交流・国際協力団体が集まるイベントに今年度も参加し、開催いたしました。

開催日時：2015年10月25日(日) 場所：仙台国際センター



4 東北福祉大学学園祭「国見祭」

原画展をメインに、活動報告会、「たからもの」アンケート、子どもたちの絵を使ったパズル、国旗を使ったカードゲーム等を実施いたしました。学生をはじめ、多くの方々にお越しいただきました。

開催日時：2015年10月24日(土)・8月25日(日) 場所：東北福祉大学



⑤ 仙台国際センター 原画展

仙台国際センター内の一室をお借りし、原画展及び2016年度版チャリティカレンダーの販売をいたしました。

※本原画展は、「日本財団学生ボランティアセンター Gakuvo」からの助成により実現しました（後述）

開催日時：2016年2月19日(木)・8月20日 場所：仙台国際センター

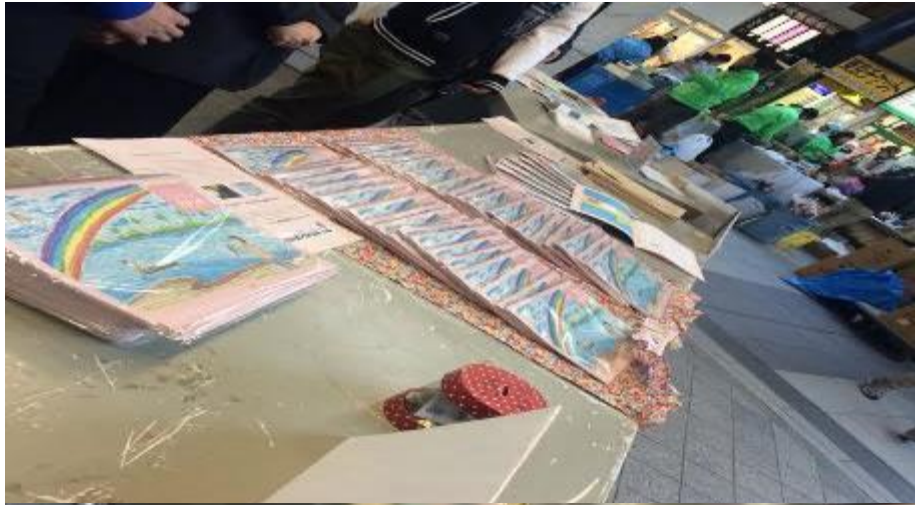




○2016年版チャリティカレンダー街頭販売会

今年度も、仙台の老舗百貨店である、仙台藤崎百貨店様のご協力をいただき、街頭販売会を行わせていただきました。多くの方々にカレンダーを手にとって頂き、世界の子どもたちやストリートチルドレン芸術祭の活動について知っていただける機会となりました。

開催日時：2015年11月28日(土) 場所：仙台藤崎百貨店



○2015年版チャリティカレンダー完成報告会

今年度のチャリティカレンダー完成報告会は、二部構成で開催いたしました。

第一部では、活動報告及びカレンダー完成報告、ストリートチルドレンについてのプレゼンテーションを行いました。

第二部では、「たからもの」をテーマとしたパネルディスカッションを行いました。パネラーによるディスカッションだけでなく、ご来場いただいた方々にも実際に自身にとっての「たからもの」を描いていただき、私たち日本人と世界の子どもたちが考える「たからもの」との違いや共通点について考えるとともに、世界の子どもたちへ思いを馳せる場となりました。

開催日時：2015年12月12日(日) 場所：東北福祉大学 ステーションキャンパス



カレンダー完成報告

今年度活動報告



パ



ネルディスカッション

○ベトナム・スタディツアー

2015年スタディツアーはベトナム・フエで行われました。ベトナム子どもの家、師範大学、カトゥー族の村などを訪れ、ベトナムの社会や文化を学ぶとともに、ストリートチルドレン芸術祭の活動で関わらせていただいている子どもたちに会うことができ、その実情を知ることができました。

我々の活動がなぜ行われており、また最終的にどのような結果を生み出しているのかを学ぶことができ、活動に対しての一層の責任とやりがいを感じることができました。また子どもたちと触れ合い、さまざまな困難を抱えて生きてきた彼らが、未来に多くの夢や希望を抱いて生きてほしいと強く感じ、改めてこれからの人生の中でできること、またしていかねばならないことを考えさせられるきっかけとなりました。

開催日時：2015年12月23日(水)～29日(火)



ベトナム子どもの家

師範大学



○その他の活動

(1) 小学校事業プロジェクト

2015年11月26日(木)、仙台市立旭丘小学校第6学年の児童を対象に、総合的な学習の時間をいただき、学生10名がゲストティーチャーとして、ストリートチルドレンに関してや、ストリートチルドレン芸術祭の活動について授業形式で啓発活動を行う、大変貴重な場となりました。

ストリートチルドレンの事を知り、海外にはいろいろな生活をしている子どもたちがいることに気づかせること、海外の子どもたちと自分たちとの共通点や相違点に気づかせること、を学習指導のねらいとした学習活動を通じて、旭丘小学校の児童だけではなく、学生自身にとっても、国際社会の平和と安全に寄与するために何ができるのかを考える機会となりました。

(2) 日本財団学生ボランティアセンター Gakuvo (ガクボ) に関して

前項にありました Gakuvo は、学生によるボランティア活動などの社会貢献活動を支援及び、活動を通して成長する学生を応援する事業です。

団体の活動領域に応じて3つのコースがあり、ストリートチルドレン芸術祭は、その中のCコースの Baca・Vo (ばかぼ) に今年度も応募しました。

一次では書類審査、二次ではプレゼン審査があり、今年度もそれらの審査を通過し、支援金28万円をいただきました。支援金受け取り後も、ホームページでの活動経過報告や、全体の活動報告会などが行われます。

支援金28万円は、先に記しました、2月に行われた原画展の施設借用費、ベトナム・スタディツアーでの現地の子どもたちへの支援物資、活動において必要な備品の購入に使用しました。本支援金を使用し開催いたしました原画展では、多くの方に子どもたちの絵を見ていただき、絵を通して子どもたちのメッセージを感じ取っていただくことができました。

また同時に、私たちの活動について、深く知っていただける場となりました。

5. 2015 年度会計報告

収入の部		支出の部	
1、カレンダー売上	¥1,586,495	1、カレンダー制作費	¥680,400
2、委託販売(昨年度分)	¥31,500	2、チラシ制作費	¥45,252
3、協賛金	¥20,000	3、修正シール制作費	¥3,105
4、寄付金	¥15,000	4、支援金	¥900,000
5、助成金	¥280,000	5、支援物資費	¥24,729

6、前年度繰越金	¥1,881,638	6、イベント費	¥258,399
		7、郵送費	¥55,110
		8、印刷費	¥3,540
		9、事務消耗品費	¥3,290
		10、交通費	¥207,550
		11、手数料	¥4,196
当期収入合計	¥3,814,633	当期支出合計	¥2,185,571
		残高	¥1,629,062

○寄付先の変更に関して

未曾有の被害を生んだ、東日本大震災が発生した 2011 年を皮切りに、ストリートチルドレン芸術祭は昨年度まで、世界の子どもたちだけでなく、震災で被害に見舞われた各地へも寄付金を届けて参りました。2014 年度版チャリティカレンダーでは、震災復興版として被災者と、被災者を支える支援者の方々にカレンダーの選考者となっていただき、被災地で暮らす方々の思いを、カレンダーを手にした皆様に伝えることができました。

しかし、2014 年度版チャリティカレンダーの収益金を、被災地へと届けることができたことを期に、2015 年度版チャリティカレンダーの収益金は、一部活動費を除いた全額を世界の子どもたちへと寄付するといった、活動開始当初の寄付体制へと戻すことといたしました。

ですが、被災地支援としてできることは、寄付金を届けることだけではありません。今後は、これまでとは違った形で、復興に少しでも携わっていくことができたらと考えております。

○2016 年寄付先予定

2015 年の寄付先は、2016 年度版チャリティカレンダーの絵の募集先（インド・インドネシア（バリ島）・カンボジア・タンザニア・ザンビア・モンゴル・バングラディシュの 7 カ国 8 施設）に各 10 万円ずつ寄付金を届けることを予定しております。

6. 終わりに

ストリートチルドレン芸術祭の活動が 11 年となりました。私たち東北福祉大学が参加してから 9 年、そして事務局機能が移転して 5 年となります。

私たちの活動の第一の目的は、カレンダーの売り上げなどによる子どもたちの生活支援・学習支援です。さらに彼らが描く絵を通じて支援することによって、世の中で必要とされていないと感じている子どもたちが自らの存在意義やがんばる喜びを感じる契機となっている、という効果も生んでいます。この活動を通じてひとりでも多くの子どもたちが路上生活から解放され、自立できることを願ってやみません。

第二に、世界中で路上生活を余儀なくされている子どもたちの存在、貧しい途上国で起きている貧困や格差の問題はこの豊かな国に住む私たちにとってとても遠いところで起きている話に感じられます。しかし、グローバル化の進行する世界にあって、私たちが消費している食品や生活必需品がこうした子どもたちの児童労働の結果であったりします。まずはそうした事実を目を向けること、知り、識ることが重要であり、世界をよりよくしていくための第一歩となるのではないのでしょうか。チャリティカレンダー制作やイベントの開催を通じて数多くの方々にこの事実を伝えていきたいと思っております。

そして第三に、この活動は支援している私たち自身の学びの場そのものです。学生たちはカレンダーを購入してくださる方々や協賛してくださる方々に活動の趣旨をお伝えする

ため、日々勉強を重ねています。ほぼ毎年行っているスタディツアーでは、途上国のストリートチルドレンと直にふれあい、彼らを支援する現地 NGO のスタッフと交流することで、普段の生活では決して得られない貴重な体験を得ながら成長していきます。

団体の立ち上げに尽力された静岡県熱海市立小嵐中学校校長（当時）の中島洋一郎先生と生徒たちをはじめ、多くの方々が現在も支援を続けてくださっています。発足当時の中学生たちの中には現在社会人となっても活動を支えてくれているメンバーもいます。また、本学で在学中に活動した後、多くのメンバーが卒業後も支援を続けています。

何より、この活動が長きにわたり継続できたのは、冒頭のご挨拶にもありますように、チャリティカレンダーの購入やイベントへの参加を通じてこの活動を支援してくださる方々、協賛してくださる方々の存在があってのことです。

このすばらしい活動が続けられた喜びを感じる一方で、さらなる活動の充実を目指したいと思わずにはられません。今後ともストリートチルドレン芸術祭の活動へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

2016年4月吉日
ストリートチルドレン芸術祭事務局 生田目学文

〈連絡先〉 **charity@tfu-mail.tfu.ac.jp**
〒981-8522 仙台市青葉区国見 1-8-1 東北福祉大学・生田目研究室内
TEL & FAX : 022-301-1260
E-mail :
HP : <http://www.children-smile.com/> HYPERLINK "http://www.children-smile.com/"